

安倍奥

安倍川・黒沢

メンバー：三井（L、記録）、塚原（眞）、
塚原（伸）（元会員）、中島（わ
らじの仲間）

遡行日：10年8月1日

僕は基本的には一度行った沢は避けて、出来るだけ色んな沢に行ってみようと思っている。

それでも何度か重ねて行っている沢があり、その中には二桁の回数になっている沢が何本かある。
そのうちの一本が今回の「黒沢」だ・

塚原さんから僕がホームグラウンドにしている沢で日帰りの沢に…、という希望があり、となると安倍奥。で、初見参という事ならやはりここは「黒沢」でしょう。

* * * * *

メンバーには前夜僕の家に来て貰って泊まり、翌朝安倍奥に向かう。

安倍川沿いに北上、黒沢林道の終点に車を止める。沢仕度を済ませ、沢に入るべく踏み跡を下ると、早くもヒルにたかられる。

今、何処の沢もヒルが異常に増えているという話を聞くが安倍奥も例外ではない。

それにしても先週の「鷹ノ巣沢」といい、その前の「杉川」といい、今年はヒルについている。うんざりするが、ならばヒルのいない沢に行けば、と言われそうだがそうもいかない訳で…。沢に降りると直ぐにゴルジュ状になるが最近降った雨のせいだろう水量

は明らかに多い。（と、言って別に困難になる訳でもないが。）

暫くすると先に釣師が竿を振っている。それも3人だ。

「ヒルと釣師」、どちらも沢では遭遇したくない存在。少々うんざりしつつその釣師に声をかける。

地元のオヤジ釣師たちで、幸い気のよさそうな釣師たちで先行の申し出にも気持ちよく応じてくれた。

ゴルジュ状の沢を楽しみつつ遡っていく。左岸のワサビ田を過ぎると二俣。左にとると二本並列の堂々とした滝と出合う。いよいよここから「黒沢」は本番、面白くなる。

右岸から巻き、懸垂で降り、次の滝は左岸を巻き斜め懸垂。5mの斜瀑は通常はシャワークライミングで越すが今日は水量が多くて無理。水流沿いを登るとその先に黒沢のハイライト、「七つ釜」の連瀑帯が現れる。

始めて見た人は皆感嘆の声をあげるし、案内した僕も何か誇らしい気になるね。

七つ釜の先が二俣状になる。ここで僕がとんでもないポカというミスをする。奥の二俣は左に入るのだが僕はあやふやな記憶のまま「奥の二俣はまだ先なのでここは右に入る。」、という事で右に進んだ。（これで正しかったのだが。）ところが暫く行くとワサビ田跡の石組みがあり、「あれっ、こんなのあったかなあ。」と思ったのだ。

で、先ほどの二俣は左に入るのか、と思い直し、戻って左に入る。小滝やらナメ滝やらを越えて行くが、あるハズのロープを使って越える滝と出合わない。

おかしいな、と思つつ遡るが沢はどんどん細くなり、とうとう水が枯れてしまった。「やってしまった。」
ここまで来れば今更引き返すなどあり得ない。そのままツメる事にする。直に沢形はなくなり、スズタケの密生地に入ります。左にトラばってヤブを漕ぐと間もなく登山道（高圧鉄塔の巡視路）に出て終了。「イヤー、参りました。」

まさか「黒沢」でルートミスをしようとは思いませんでした。ひたすら恐縮するのみ。中島さんは「左俣を初めて遡行したと思えばいいじゃない。」なんて言っはくれましたがねえ。

ズックに履き替え、その巡視路を下るが、3本の鉄塔があるのだが、不思議と鉄塔の付近の踏み跡が不明瞭で、うろうろしたがマー、別に問題はなく、車を止めた林道に下りつき山行は終了。

ところが沢着を替えようとする、と、塚原さんヒルが2、3匹吸い付いており、一騒動。

僕の車の横に軽トラが止まっていて、間もなくその軽トラの持ち主の二人の親父さんが現れた。入渓したところにあつたワサビ田の主で、作業をしていたとの事だった。

その主にも数匹のヒルがたかっている、手にした塩水にお酢を混ぜたスプレーを吹きかけて剥ぎ取っていた。

その親父さんたちと暫く話をしてみたが、やはりカモシカが増え、ヒルが酷くなったと言っていた。それと黒沢の並列の滝の事を「ガニゴロウ」（そう聞こえたのだが…。）と言っていた。滝の俗称だろうか。

* * * * *

「黒沢」でルートミスなどあり得ないボカで変なところを登ってしまったがこれが沢登り、でも沢自体は楽しんでもらえたようでマー、良かったかな。